

BREAKMASTER

DIGITAL GREEN READER

Owners Manual

ブレイクマスター

デジタルグリーンリーダー

マニュアル（日本語版）



EXELYS



パットの曲がり方

ゴルフ場のグリーンは、通常雨水がグリーン上にたまらないように1°かそれ以上の傾斜をつけて設計されています。あなたのパットがカップに向かってどれだけ曲がるかを決める最大の要素は、グリーンへの傾斜です。（もちろん、パットの曲がり方の度合いは、ボールのスピードと重力の影響により変わってきますが。）パットの専門家であるデーブ・ペルツは著書「パッティングバイブル」の中でこう述べています。：

「調査の結果では、カップを狙ったパットの98%はどちらかに切れるか曲がることわかりました。曲がらないパットはグリーンへの傾斜に沿った直線の上りか下りの場合しかありません。このようなラインに沿った直線のパットは、全てのパットの2%しかなかったということです。」

パットの距離に応じてボールがどのように転がるかは、パットのストロークの強さにより決まってきます。しかしながら、カップに向かうボールの転がるスピードが徐々に弱まると、パットのストロークの強さによる影響よりも、ボールに対する重力の影響の方が大きくなってきます。従いボールはカップに近づくに連れて曲がり方が大きくなっていくのです。

グリーンがどちらに傾斜しているかわかることもありますが、多くの場合目で見るだけではどちらに曲がるのかははっきりしない場合の方が多いと思います。特に、丘陵地あるいは森林地帯のゴルフ場でプレーをしているときには、参考とすべき地平線が見えないので傾斜の判断が出来ないわけです。そんなときにどうやってグリーンの本当の傾斜を判断することが出来ますか？

パターを垂直に吊り下げてグリーンへの傾斜を読む方法は、既にパットの専門家からは疑問視されています。そもそも、ほとんどのパターは真直ぐ垂直に吊り下がることはありません。もしそれが出来たととしても、今度はグリーンに寝そべてカップのふちの水平線を実際に読み取り、その線と吊り下げているパターの垂直線との交差を読み取る必要があります。

パットが大体どちらに曲がるかはわかって、何度の傾斜で曲がるかどうかまでわかりますか？大きく曲がるのか少ししか曲がらないのか？1°の傾斜の下りのパットと3°の傾斜とでは曲がり方は大きく変わってきます。

実際には、殆どのゴルファーは自分の勘に頼ってパットをされているのではないのでしょうか。たまにはうまくいくでしょうが、外れる場合の方が多く、結果的に外れたパットから何かを学ぶことよりも、単にフラストレーションが募るだけではないのでしょうか。

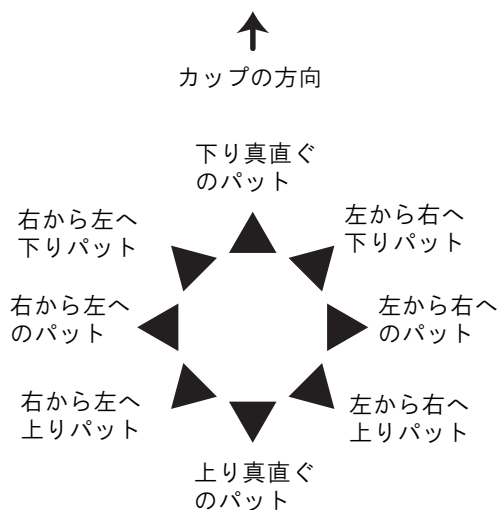
そのような悩みを解決するために、ブレークマスターというデジタルグリーンリーダーを開発しました。

ブレークマスターの使い方

ブレークマスターの上部にあるオン/オフ・スイッチのボタンを押して電源を入れます。簡単な機能確認が自動的に実施され使用可能な状態となります。

カップとボールを結んだパッティングライン上でカップに近いところにブレークマスターを置いてください。置く向き、方向は関係ありません。どの方向に置いても正しく機能します。

ブレークマスターは直ぐに測定を開始し、傾斜の角度をデジタルで表示します。ブレークマスターの三角の矢印が、下図に示すように下りの傾斜度（パットの曲がる方向）を表示します。



もし二つの三角の矢印が表示された場合は、その二つの矢印の真ん中の方向が傾斜方向を示すこととなります。もし、全ての矢印が表示された場合には、傾斜のない完全にフラットな状態であるということです。

ブレークマスターに表示される数値は傾斜角度を表しています。数字は何を意味するのでしょうか？数字が大きくなればなるほど、傾斜角度が大きくなりボールの曲がる度合いが増大することになります。

1.0° 以下の場合には、ボールが切れる可能性は殆どありません。1.5° になると多少曲がるようになります。2.5° になればかなり大きく曲がります。3° から4° になるとボールの曲がり方はかなり激しくなります。

もちろんボールの曲がり方は、グリーンが硬いか柔らかいか、乾燥しているか湿気があるかにより影響を受けることも確かです。

硬いグリーン、乾いたグリーンでは、一般的にボールの転がり方が早くなります。また、柔らかいグリーン、湿気のあるグリーンでは回転は遅くなります。速いグリーンでは、パットの曲がり方は大きくなります。逆に、遅いグリーンでは、パットの曲がり方は小さくなります。

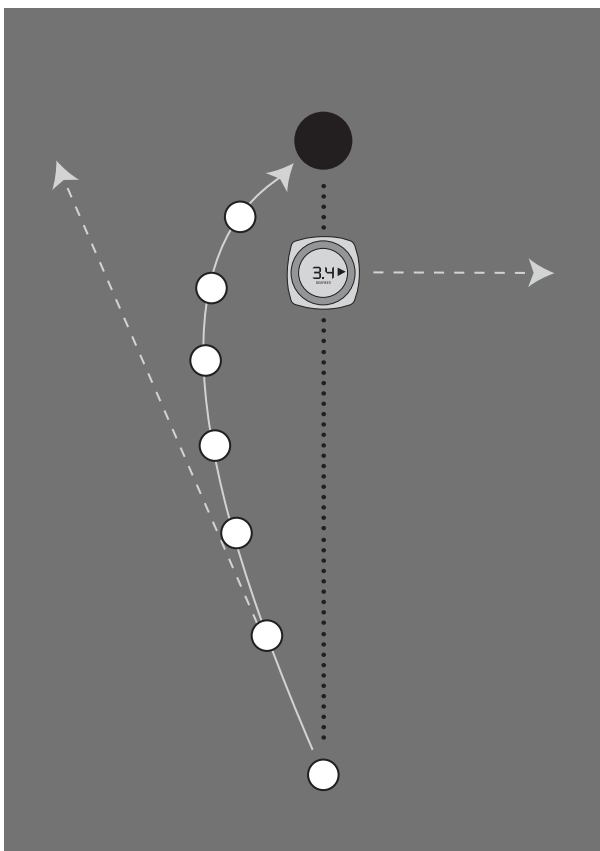
グリーンを読み終わったら、ブレークマスターのスイッチを切りバッテリーの浪費を防いでください。スイッチを切り忘れてもブレークマスターは2分後に自動的にスイッチが切れるので安心です。

ブレークマスターの利用法

曲がるパットを克服するためには、傾斜がどのようにボールの転がりに影響を与えるかを知る必要があります。それに基づいてしっかり練習をすることです。練習ラウンドあるいはパッティンググリーンでの練習にブレークマスターを使用することをお勧めします。

グリーン上で自分のボールに向かうとき、いつものとおり自分の目でパッティングラインを狙ってみてください。過去の経験あるいは自分の目で見てグリーンがどちらに傾斜しているのかを確かめてみてください。

自分でグリーンを傾斜をしっかりと読み取ったと判断したら、ブレークマスターのスイッチを入れ、パッティングラインの線上でホールに近いところに、ブレークマスターを置いてください。



曲がり方を正しく把握しましたか？ブレイクマスターが答えを教えてください。

傾斜の角度がわかりパットの曲がる方向も理解出来たら、後はそれらを参考にして狙いを定めるだけです。例えば、傾斜角度が 3.5° 下りとなった場合は、 1.5° 下りの場合よりもはるかに大きく曲がることを想定して、上りのパットラインを狙う必要があります。

次に、パットをしてください。そしてボールが転がるラインに対していろいろな曲がり方があることを理解してください。

はずしたパットのフラストレーションについて学ぶのではなく、ブレイクマスターがゴルフの仕組みについて教えてくれるでしょう。

グリーンの状態

残念ながら、グリーンの表面は必ずしも完全にフラットというわけには行きません。ボールマークの凹み、足跡、不ぞろいの芝がブレイクマスターの測定に影響を与える可能性があります。ブレイクマスターは非常に精巧な機器なので、置かれた場所の正確な傾斜角度を測定します。しかしながら、グリーンの表面が凸凹な場合には、一箇所の測定だけを頼りにすることは控えるべきです。15 cmから30 cm以内の別の場所で2-3回計測してみてください。計測した数値の平均値を計算することによりそのホールの近くでの正確な傾斜角度を計測することが可能となります。ブレイクマスターは傾斜角度の測定を瞬時に行うことができますので、このような計測にはほんの数秒しかかかりません。

グリーンの表面が時として、ほとんどフラット(0.9° 以下)な場合にブレイクマスターの傾斜の矢印が異なる方向を示すことがあります。これは誤作動ではありません。この場合には殆どボールも曲がりませんので、傾斜角度を気にすることなくストレートにパットすればよいわけです。

上り、下りのボールの曲がり方

今までは、傾斜線に直角な線に沿ってパットをする場合の説明をしてきましたが(グリーンの傾斜の方向がパットの方向と直角になる状態、すなわち、ブレイクマスターをボールからカップの方向に向けた場合に、矢印が3時か9時の方向を示す場合)、もし、右か左の傾斜に、上りか下りの傾斜が、少し加わった場合にどうなるでしょうか。この場合は、あなたのパットの狙うラインに更に調整が必要となります。

注意しなければならないのは、下りの曲がるパットは、上りの曲がるパットよりも左右の切れ方が大きくなるということです。従い、下りのパットの場合は、それ以外のパットの場合よりも狙うラインの方向の角度を大きく取る必要があります。

左右には傾斜のない、真直ぐの上りか、真直ぐの下りの場合のパットの場合はどうでしょうか？

上りのパットの場合は、多少強くパットしても、ボールがあまり転がらないのでカップからそんなに大きく外れることはありません。しかし、弱過ぎるパットの場合はどうでしょうか？カップに届かず、自分の判断を悔やむこととなります。

下りのパットはどのゴルファーにとっても、まさに悪夢です。下りのパットをはずして、ボールがカップをはるかに通り過ぎ、スリーパットかもっと悪い結果をもたらすほどフラストレーションのたまるものはありません。

ブレークマスターは、厳しい上りか下りのパット、あるいは、殆どフラットなパットとの違いをはっきり示すことが出来ます。

もし、真直ぐの上り、あるいは真直ぐの下りのパットをすることになった場合、ブレークマスターをカップのそばではなく、ボールのそばのパッティングライン上に置いてみてください。そこで傾斜角度と矢印の方向を読み取ってください。真直ぐの上りのラインの場合でしたら、矢印は自分の方を指すはずで、真直ぐの下りのラインであれば、矢印はカップの方を指すこととなります。ブレークマスターに示された数字の大きさが傾斜の角度の大きさを表すことになるので、パットの強さをどれくらいにするか調整することが可能となります。

ブレークマスターのヒント

ブレークマスターは競技で使用するようには作られたものではありません。グリーンの傾斜を正確に読めるように目を訓練するためにデザインされたものです（レンジファインダーが距離の測定の助けとなるのと同じように）。従い、競技にこっそり使用することはお勧めしません。しかしながら、競技の前にグリーンを読み、グリーンが曲がり方をチェックしてヤーデージブックに記録しておくことはルール違反ではありません。

更にお勧めしたいことは、グリーンを読み取った情報を自分で独り占めするのではなく、一緒にラウンドしているフォーサムプレイヤーと共有したら如何でしょうか。皆が、曲がるパットをすればするほど、お友達が出来ること請け合いです。

また、自分のペースを大事にしましょう。ブレークマスターの使用はお勧めしますが、自分のパッティングライン上で、あまり使い過ぎないように注意しましょう。1-3回さっと測定するだけで、自分の狙いを調整しパットを沈めることが出来るでしょう。

もし苦情を言う人がいたら、「スロープレーの原因は、グリーンを読むことよりもむしろスリーパットをすることです。」と言ってあげましょう。これは、ゴルフマガジンでポール・トリットラーがコメントしたことです。

トラブルの解決

ブレークマスターは、防湿対策が施されていますが、水中には浸さないでください。グリーン上で湿気を帯びたら、しまうまえに、乾いたタオルで必ずふき取るようにしてください。

ブレークマスターは頑丈に出来ていますが、壊れないということではありません。ゴルフバッグに入れる場合には、ゴルフクラブ、ゴルフカート等でつぶされないようにきちんと保護してください。

電池交換：通常の使用（毎週1-2ラウンド）で、1年間は電池の交換は不要です。電池がなくなってきたら、ブレークマスターに電池の表示が出ます。時計用のSR44（357）2個を交換してください。

ブレークマスターの仕様

表示：0.0° - 9.9°（0.1° 毎）

精度：+/- 0.2°

方向表示：下り方向に16個の矢印

寸法：80mm（幅）x 80mm（奥行）x 25mm（高）

重量：110g

電源：酸化銀電池 2 x SR44(357)

